うき健康征 第84回

『もう待たないで!

の出にくいのが特徴です。 器」とも呼ばれており、病気にかかっても自覚症状 とって重要な役割の多い大切な臓器です。「沈黙の臓 の分解・解毒、たんぱく質の合成など生命維持に いでしょうか。肝臓は、脂肪や糖の合成と分解、薬物 を分解する機能を第一に思い浮かべられるのではな 皆さん、肝臓といえばお酒に含まれるアルコール

になる前に早期治療をすることが重要なのです。 硬変になった場合、十年間で実に七割の方が肝臓が 患者さんが肝臓がんを発症しています。これは、肝 肝硬変や肝臓がんの原因となります。年に約七%の どにより感染し、進行性の経過となることが多く んにかかってしまうことになります。つまり、肝硬変 イルス性肝炎のひとつで昔の輸血や針刺し事故な 肝臓の病気のひとつに、「C型肝炎」があります。ウ

②肝臓がんの原因の多くはC型肝炎であるが、C型肝 ①肝臓がんにより亡くなる人は、一時かなり増加し 炎由来の肝臓がん患者さんは、減少してきている たものの、現在は緩やかに減少している

現在の肝臓がんに関する状況は次のとおりです。

したからといわれています。 型肝炎由来の肝臓がんは減ってきています。なぜで しょうか。理由は、多くの患者さんがC型肝炎を治 高齢化とともにがん患者さんが増えている中、C

肝炎の治療は進化し続け、ついに最新のインター

専門職員が皆さんにお届けする健康情報コー このコーナーは、町立病院・診療所の医師や

関するお話です。 先生。早期の適切な治療が重要なC型肝炎に 今回の担当は、国保京丹波町病院の岡嶋亮

たっては、必ずしも入院を必要としなくなりまし も、二十四週間の治療で約九○%の方が治っていま フェロン治療では、治りにくいウイルスのタイプで す。副作用も少なくなり、自己管理ができる方にい

先生(国保京丹波町病院)

用できない患者さんに限る)。 治っています(インターフェロンを医学的な理由で使 も承認され、二十四週間の治療で約八五%の方が た。また、新たにインターフェロンを使用しない薬剤

療を受けていただきたいです。 す。特に活動性肝炎がある方(ASTが三十以上の 万、もしくは血小板が十五万以下の方)は、早く治 療法でも比較的安全かつ十分な治療効果がありま 今後も新薬は登場する見込みですが、現行の治

ています。 土曜日の内科・小児科の午前診療を、毎週行っ 京丹波町病院では、平成二十六年四月から 86-0220